



草の根 ささえあい プロジェクト

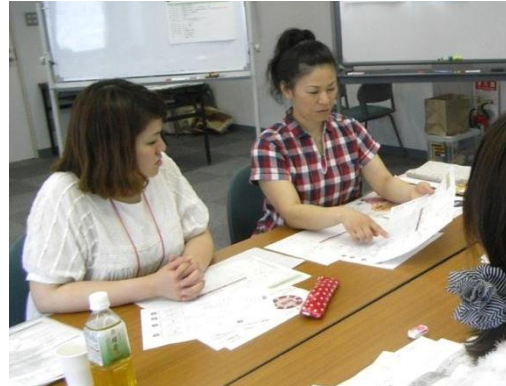
誰もがありのままを認められる暮らしの中で、
ひとりひとりの小さな一歩を大切にしたい。やさしい社会にしたい。




代表理事 渡辺 ゆりか



- 2011年4月：任意団体として発足
- 2012年4月：一般社団法人 取得
- 2013年：子ども・若者総合相談センター
：居宅介護事業所でこぼこ
- 2019年：オープン型交流スペース
：SNS相談（ライン相談）
：名古屋市・若者企業
リンクサポート（就労支援）
：草の根ホッとライン
（何でも相談）



一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト
名古屋市子ども・若者総合相談センター
渡辺 ゆりか 



2011年『穴をみつける会』として発足

「(困っていることは) わかっているけれど、まあしかたがない…」と地域のサポーターとや人とのつながりから排除や放置をされ孤立する方々が、なぜ生まれるのか？その方々がたどるプロセスを解明し理解するためのプロジェクトを発足。120名へのインタビューからそのフローチャートを導き出し、〈孤立の川の図〉を完成させる。



生活課題

人間関係
各ライフステージ
・家庭 ・学校
・地域 ・職場
で、人間関係の
トラブルや失敗を
何度も繰り返す

ex.
発達障害
軽度知的障害
学習障害 など

ex.
困窮家庭、ネグレクト、
虐待、ひとり親家庭、
いじめ など

個人要因 + 環境要因

人に理解されない

トラブル
を起こす

自信を
持てない

失敗

アクション
する

ループ

ゆるい
ループ

①人から
疎外される

②人前に出
るのが怖い

きっかけ

外に
出たい!

⑤家族で
孤立する

家庭に複数の困難

孤立の川

超えると戻れない川

③居場所
がない

④人と自ら
隔絶する

<膠着>

<膠着>

社会とつながる
力を徐々に失う

多

ひき
こもり

SNEP
状態

貧困

社会から
ますます
疎遠に

寄り道なしで、
最悪の事態に
なりやすい

あきらめの谷

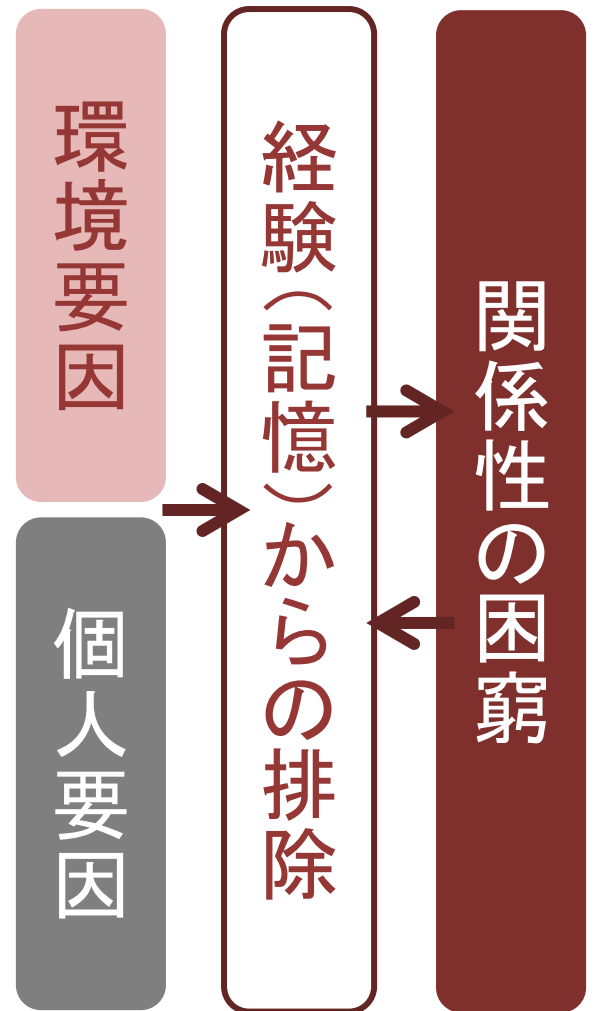
孤立の
長期化

希望の
喪失

自死など最悪の事態に

わたしたちが出会う子ども・若者たち

- ・海を見たことがない
- ・誕生日にケーキで祝ってもらったことがない
- ・運動会に両親が来てくれたことがない
- ・両親が全ての選択の機会を奪ってきた
- ・普通を押しつけられてきた
- ・楽器を演奏や読書など文化的な経験がない
- ・友だちがひとりもない
- ・学校の授業にどうしてもついていけない
- ・集団生活やルールの意味が理解できない
- ・どうしても自分に価値があると思えない
- ・仕事についても、すぐにクビになってしまう



「どうして、わたしだけ？」 → 「どうせ、わたしなんて・・・」

< 伴走型支援に支援に大切な要素 >

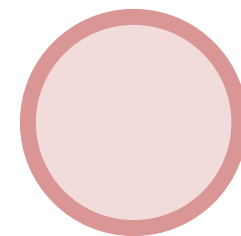


専門性 <



生きづらさを持った方の特性や能力をアセスメントし、本人や周りの人たちに前向きなメッセージで伝え（通訳し）、本人が持ち味を生かせる環境をつくっていく

安心して暮らせる「環境」を、本人の周りにつくっていくこと



関係性



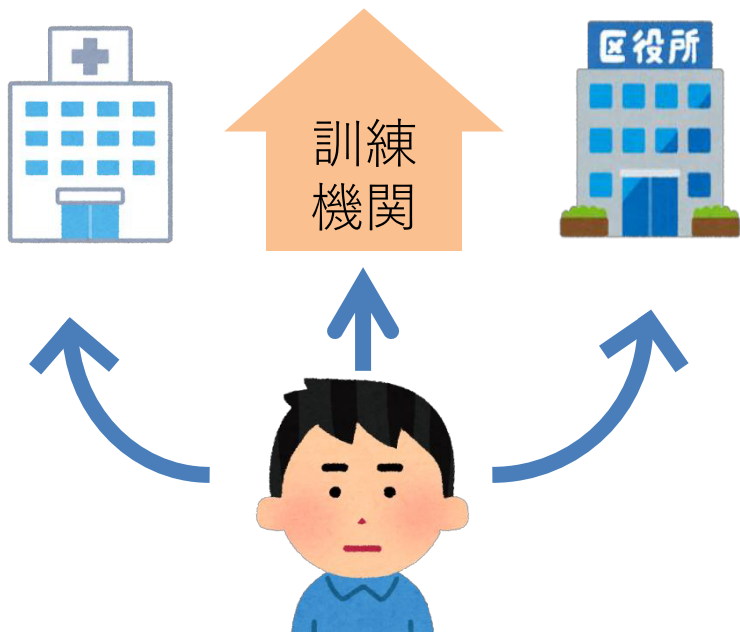
必要な経験や人とのつながりから疎外されてきた方に対し、日常の様々な経験を一緒に重ねていく「よりそい型」の支援が有効

身近な人が優しく手ごたえのある「存在」になること

A: 専門性ベースのアセスメント (既存の制度や機関につなげる)

A: 見立て方

- ・精神障害があるのに通院できていない
- ・お金の管理ができず困窮
- ・働くためのスキルが足りない
- ・必要な手続きや申請が困難

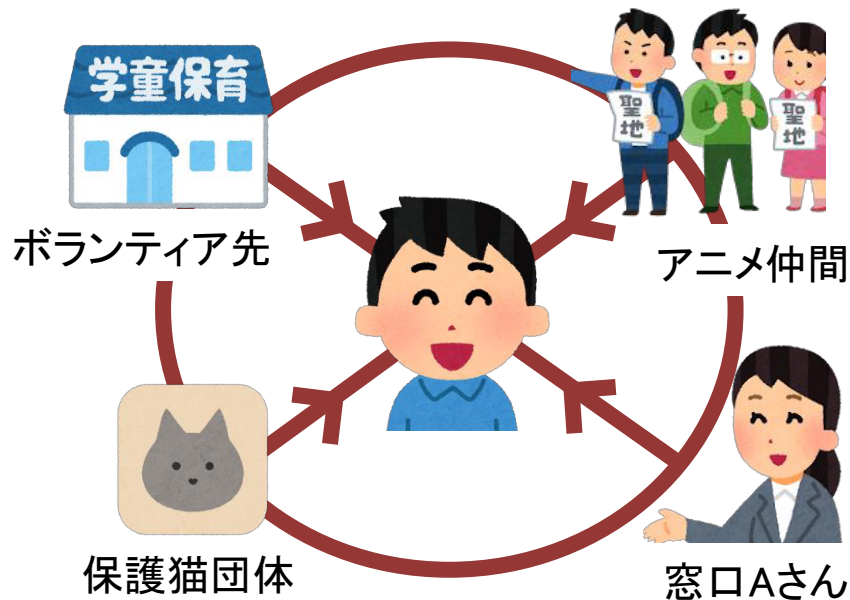


問題の解決

B: 関係性ベースのアセスメント (本人の好きや興味を軸に、 地域の優しさ・見守りをあつめる！)

B: 見立て方

- ・猫と遊ぶと心も身体も元気になる
- ・アニメの趣味のためなら貯金できる
- ・子どもが好きで優しい
- ・ゆっくり話す人であれば理解ができる



問題の解消

関係性を中心とした支援とは？

＝ひとり一人の「物語」によりそうこと

物語が
地域を
つくる

ストーリー1 「メリーちゃんを探せ！」



ストーリー2 「強がっていた青年の涙」



ストーリー3 「野球女子会」

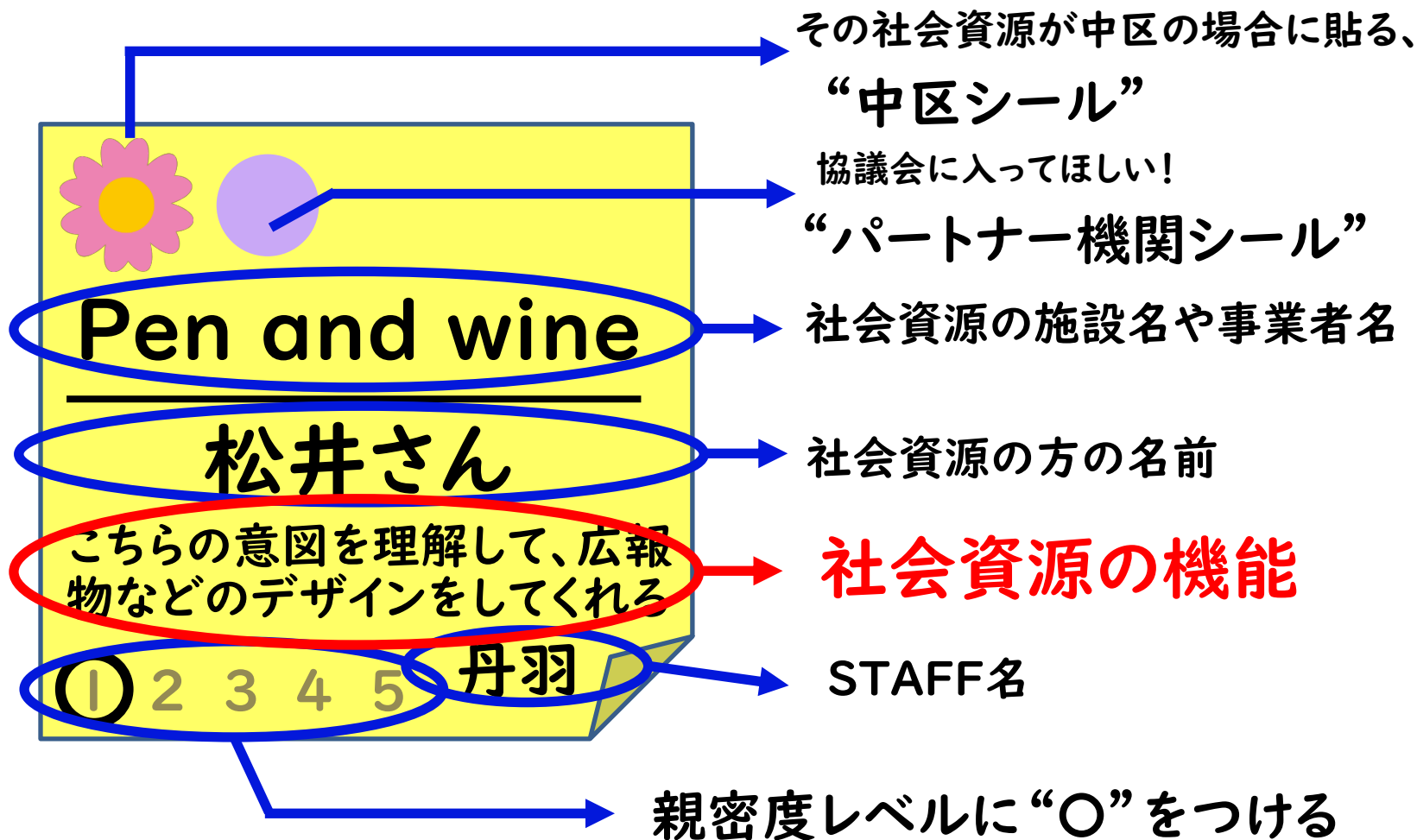


若者や私たちをとりまく 社会資源マップ



草の根ささえあいプロジェクトで実際に活用している社会資源マップ。公的機関から市民団体、専門家から一市民まで、ジャンルや立場を超え多様な方々が、困り事を抱えた方の応援団として力を貸してくださっている。ジャンルは30を超え、ふせんに書かれた一つひとつの支援機関すべてに、顔の見える関係性を築いている。

ふせん書きかたサンプル



親密度レベル判定

どれか1つでも
当てはまればOK!

①



- ・私のリクエスト
なら断らない!
- ・お茶(呑み)友達
- ・ため口で話せる
- ・同級生
- ・元同僚

etc...

②



- ・先輩や後輩
- ・仕事のことなら
親身になって
聞いてくれる
- ・お互いのことを
理解している
- ・気が合う

etc...

③



- ・仕事での
やりとりがある
- ・連携ケースあり
- ・お互いのことを
しっかり認識
している

etc...

④



- ・数回会ったこと
がある
- ・自分は相手の
ことを知って
いる

etc...

⑤



- ・名刺交換した
- ・一度だけ
訪問した

etc...

市民のインフォーマルな力を、困難を抱えた若者に届ける取組み
「よりそいサポーター」

家庭訪問

不登校・引きこもりの
家庭等を訪問し、相談者
の状況に応じた働きかけを行います



同行支援

支援機関、居場所
公的機関病院
などに同行します



面談・おしゃべり



コミュニケーションの
苦手な若者と、会話を
することで、若者の気
持ちによりそいます

居場所・プログラム参加



若者たちと一緒に
趣味や楽しみを
一緒に見出します

友だち以上家族未満 ～親密な他者～

の存在が 若者の回復 につながる 入り口であり、出口でもある市民性

◇サポーター登録：200名（第1期～第5期）

◆令和元年度稼働数：619件 ※打ち合わせ・研修・振り返りを含む

ストーリー4 「負けたい相手」



ストーリー5 「昆虫博士と一緒に」



ストーリー6 「保護猫に会いに」



＜重層性と個別性＞

専門性と市民性の垣根なく、ご本人にとって本当に必要なことを、必要なタイミングで提供する。その役割は地域で分担し、ご本人のまわりに多様な立場の人々が多面的に応援やサポートを重ねていく。
また支援者自身が、専門性だけでなく、時に市民性(インフォーマルな力)を発揮したりもする・・・重層性

地域の人や資源(アイテム)と、どんなシチュエーションでどんな順番で出会うことが、ご本人の人生の可能性を広げることになるのかを、「一人ひとり」丁寧に考えてプランニングする・・・個別性

◆フォーマル/インフォーマルの機能

フォーマル (専門性)	生きのびる	トピックス	キーパーソンが必要	入り口
インフォーマル (市民性)	生きていく	物語	誰でもOK	入り口 & 出口

ひとり一人の物語を支えていくには、インフォーマルなつながりが必須

りよく
人を回復させる ケア力は「地域」にある！

